

伊丹福音ルーテル教会 待降節第二主日礼拝のしおり

2022 年 12 月 4 日

前奏

アドヴェント讃美歌 21.242 番

1 主を待ち望むアドヴェント、最初の蠟燭 灯そう 主が道を備えられた この時を守ろう

※ 主の民よ、喜べ 主は近い

2 主を待ち望むアドヴェント、第二の蠟燭灯そう 主がなされたその様に 互いに助けよう※

招きのことば：詩編 72 章 1-7,18-19 節

神よ、あなたによる裁きを、王に あなたによる恵みの御業を、王の子に お授けください。

王が正しくあなたの民の訴えを取り上げ あなたの貧しい人々を裁きますように。

山々が民に平和をもたらし 丘が恵みをもたらしますように。

王が民を、この貧しい人々を治め 乏しい人の子らを救い 虐げる者を砕きますように。

王が太陽と共に永らえ 月のある限り、代々に永らえますように。

王が牧場に降る雨となり 地を潤す豊かな雨となりますように。

生涯、神に従う者として栄え 月の失われるときまでも 豊かな平和に恵まれますように。 |

主なる神をたたえよ イスラエルの神 ただひとり驚くべき御業を行う方を。

栄光に輝く御名をとこしえにたたえよ 栄光は全地を満たす。アーメン、アーメン。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

み言葉の部

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、

十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。

生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 **アーメン**。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

私たちは神様の慰めによって希望をいただきます。難しいことがあって、それが長い間のこととなっても、忍耐できるのは神様の慰めがあるからです。あなたは私たちの絶望を希望に変えてくださいます。父なる神様、ありがとうございます。あなたを心からほめたたえます。

どうぞあなたからいただく希望によって明るく元気な一週間をすごすことができますように、愛なる神様がそこにいてくださることを信じて、愛と慎みをもって全力で人々の役にたって歩むことができますように、私たちを支え導いてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：ローマの信徒への手紙 15 章 4-13 節

かつて書かれた事柄は、すべてわたしたちを教導するためのものです。それでわたしたちは、聖書から忍耐と慰めを学んで希望を持ち続けることができますのです。忍耐と慰めの源である神が、あなたがたに、キリスト・イエスに倣って互いに同じ思いを抱かせ、心を合わせ声をそろえて、わたしたちの主イエス・キリストの神であり、父である方をたたえさせていただきますように。だから、神の栄光のためにキリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに相手を受け入れなさい。わたしは言う。キリストは神の真実を現すために、割礼ある者たちに仕える者となられたのです。それは、先祖たちに対する約束を確証されるためであり、異邦人が神をその憐れみのゆえにたたえるようになるためです。「そのため、わたしは異邦人の中であなたをたたえ、あなたの名をほめ歌おう」と書いてあるとおりです。また、「異邦人よ、主の民と共に喜べ」と言われ、更に、「すべての異邦人よ、主をたたえよ。すべての民は主を賛美せよ」と言われています。また、イザヤはこう言っています。「エッサイの根から芽が現れ、異邦人を治めるために立ち上がる。異邦人は彼に望みをかける。」希望の源である神が、信仰によって得られるあらゆる喜びと平和とであなたがたを満たし、聖霊の力によって希望に満ちあふれさせてくださるよう。

福音書朗読：マタイによる福音書 3 章 1-12 節

そのころ、洗礼者ヨハネが現れて、ユダヤの荒れ野で宣べ伝え、「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言った。これは預言者イザヤによってこう言われている人である。「荒れ野で叫ぶ者の声がする。『主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。』」ヨハネは、らくだの毛衣を着、腰に革の帯を締め、いなごと野蜜を食べ物としていた。そこで、エルサレムとユダヤ全土から、また、ヨルダン川沿いの地方一帯から、人々がヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた。ヨハネは、ファリサイ派やサドカイ派の人々が大勢、洗礼を受けに来たのを見て、こう言った。「蝮の子らよ、差し迫った神の怒りを免れると、だれが教えたのか。悔い改めにふさわしい実を結べ。『我々の父はアブラハムだ』」などと思ってもみるな。言うておくが、神はこんな石からでも、アブラハムの子たちを造り出すことがおできになる。斧は既に木の根元に置かれている。良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれる。わたしは、悔い改めに導くために、あなたたちに水で洗礼を授けているが、わたしの後から来る方は、わたしよりも優れておられる。わたしは、その履物をお脱がせする値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。そして、手に箕を持って、脱穀場を隅々まできれいにし、麦を集めて倉に入れ、殻を消えることのない火で焼き払われる。」

讃美歌 226 番

- 1 地に住める 神の子ら 歸り来よ 主の道に
ためらえる思い捨て み招きに従いて いさぎよく主に歸れ
- 2 地はきよく 人みなは み恵みに 生くべきを
あだし夢 えがきては 世々の国 滅びゆく 世の民よ 主に歸れ
- 3 ひとみなの主にありて 結ばるる その日まで
みむね地に ならざれば 罪を悔い あがなわれ 世をあげて 主に歸れ **アーメン**

説教：「悔い改めよ、天の国は近づいた」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

教会の暦では、クリスマス待ち望む待降節に入っています。この時期に毎年読まれるのが、バプテスマのヨハネの記事です。すぐあとに来られるイエス・キリストを人々に紹介しました。救い主が来られるすぐ前にこのような預言者が登場するということは七百年も前に旧約聖書の預言者イザヤが、救い主の道を備える人が来る、と予告をしていました。ヨハネは個性的でした。荒れはてた原野でらくだの毛皮を着ていなごと野蜜を食べて暮らしていました。私たちもクリスマスの前にバプテスマのヨハネに耳を傾けましょう。

第一に気づくのは、悔い改めなさい、天の国は近づいた、とヨハネが語っていることです。天の国は神様のご支配する国、その権威をお持ちなのはイエス様ですから、天の国が近づいたと

いうのはイエス様が来るのが近づいたということですね。ですからイエス様に会うために悔い改めなさい、とヨハネは言っています。待っていた天の国が近づいたのなら、普通は喜びなさい、と言うのではないのでしょうか。しかし、イエス様に会うためにはまず悔い改めなさい、とヨハネは迫ります。なぜでしょうか、また、何を悔い改めるのでしょうか。イエス様はあなたの罪を赦すために来てくださいます。ではあなたはあなたの罪がわかっていますか、ということです。あなたの何が赦されるのか、わかっていますか、ということです。神様の御前にあなたは罪びとであることがわかっていますか、自分が神様から離れた失われた人であることがわかっていますか。自分で何とかできる、このままで何とかする、と思っていたらイエス様から何も期待しないでしょ。自分が罪びとであることがわかったら自分の方から罪の赦しを願い、受け取ることができるでしょう。

社会では法律に違反する罪は見つけられて裁きを受けます。しかし私たちの心はどうでしょうか。神様に造られた私たちは、神様の秩序にあった生活をしていません。社会的に法律に大きく違反するまでのことはしていなくても、心の中では神様を認めず、自分中心です。それは神様の前に罪びとであるということです。また、自分中心で神様から離れているから、深いところに心配や恐れ、不満や悩みがあります。また勇気がなくて真実をつらぬくことができず、また愛がなくて人々を赦すことができません。神様から離れているから、問題がわかっててもそれを自分で正すこと、直すことができません。私たちは毎日、そのように既に罪の罰を受けていますが、悔い改めて罪の赦しを受けていないとやがて神様の正しい裁きを受けて、永遠の滅びへと行かなければなりません。

私たちは神様への罪に満ちた社会に住んでいます。いい人もいてくれるのですが、人は自分の権利ばかりを主張して、人を傷つけています。既得権や利権が複雑にからみ、自分を守ろうとする人々に満ちているため、この社会は不義と不正のバランスで動いていて、社会は簡単にはよくなりそうにありません。イエス様が天の御国をもたらしてくださるなら、そのままでいいのでしょうか。

イエス様は私たちの罪を赦す救い主です。罪を悔い改めましょう。私たちは赦しの宣言を聴きました。またこのあとの聖餐式で洗礼を受けている人は罪を赦すために裂かれ流されたイエス様の体と血にあずかります。イエス様が来てくださっています。すなおな心で罪を悔い改めて、イエス様の豊かな赦しに預かりましょう。そして社会においては神様に赦された者として、正しく歩み、人を赦し、イエス様が来てくださっていることを人々に伝えましょう。イエス様によって罪を赦していただいて、天地万物をおつくりになって保っておられる神様をお父さんと呼ぶ神の子どもとして歩むところにすべての悩みの解決があります。

バプテスマのヨハネは第二に、悔い改めにふさわしい実を結べ、と言っています。当時の立派な聖書の先生方であったファリサイ派やサドカイ派の人びとに対して、あなたがたは蝨の子どものようなものだ、悔い改めているようだけど心と生活に何の実も結んでいないではないか、

と迫りました。彼らは自分たちはアブラハムの子孫だ、だから大丈夫だ、と考えていました。自分は大丈夫だ、と考える理由が、自分たちは神様に選ばれた特別な人だという誇りでした。神様のことを知らない外国人のようではなく、自分たちはアブラハムの時代から神様に特別に愛されて守られてきたのだ、だから悔い改めの実を結ばなくても大丈夫だ、と安心していました。私たちも生きた信仰ではなく、立場や実績や友達や人の評価で安心することがあります。長い間教会にきているから、とか、自分の家族がみんな教会員だからとか、生きた信仰以外の理由でたぶん神様に受け入れてもらえるだろう、と思っている人の甘さは赦されません。神様に罪赦された人は新しいいのちを得て、信仰の実を結ぶからです。生きた信仰がないとこの罪の赦しを得られず、信仰の実が結ばれません。生きた信仰はいつも神様のみ言葉を聞いて、自分の罪を悔い改めてイエス様の罪の赦しを受けている人です。神様につながっていることです。イエス様という葡萄の木の幹につながっていると、枝である私たちに養分が流れ込んで、自然に豊かな実を結びます。愛や喜びや平安や寛容や、親切や善意や誠実や柔和や自制と言う品性の実を結ぶのです。愛をもって真実を語り、人の罪を覆って人と人を結ぶ者となります。生きた信仰をもって悔い改めにふさわしい実を結びなさい、とバプテスマのヨハネは言っています。

バプテスマのヨハネは第三に、イエス様は聖霊と火であなたがたにバプテスマ、洗礼を授けると言われました。バプテスマのヨハネ、といわれたヨハネは、人びとに水でバプテスマを授けていました。しかしイエス様は自分と違って聖霊と火の洗礼を授ける方です、と言っています。どんな違いがあるのでしょうか。イエス様は火のような裁きを受けてくださいました。十字架で死んで下さり、私たちのかわりに神様に見捨てられてくださり、私たちの罪のために受けなければならなかった罪の裁きをすべてご自身の身におってくださり、火の裁きを受けてくださいました。聖霊はそのイエス様が私たちの救い主であることを信頼させてくださいます。イエス様が授けてくださる洗礼によって、私たちの内にイエス様を信頼する信仰がつけられます。イエス様が私の罪の裁きをすべて受けつくしてくださった赦しと平安にあずかります。

つまりバプテスマのヨハネの授けていた水の洗礼は、悔い改めたことを認める洗礼でしたが、イエス様が与える聖霊と火の洗礼は罪の赦しを与える洗礼です。私たちを赦すためにイエス様はご自分で私たちの受けるべき罪の罰を受けてくださったので、そのように信じて受ける洗礼によって赦しにあずかり、実を結ぶ生きた信仰をいただきます。

バプテスマのヨハネは、悔い改めなさい、天の国は近づいた、と言いました。私たちは自分中心でわがままです。人の罪や悪い心はよくわかります。私たちは自分の自己中心には甘く、人の罪に厳しいのです。それで、神様、できるならあの人を何とかしてください、と祈ります。しかしヨハネはあなたが悔い改めなさい、と言います。あの方はちょっと横において、まずあなたが悔い改めなさい、と言います。そんな自分の非を認めたら何をされるかわからない、と私たちは自分を守ろうとします。クリスチャンになったあともそんなことがいつまでも続いてきました。そのようにして愛や喜びや平安と言う信仰の実を結ばないでいました。自分を守る

緊張した心を神様によって緩めていただき、神様あなたに任せます、私は罪深い者です、どうぞあわれんでください、と祈るのです。

神様はあなたのその罪を赦すためにイエス様を遣わしてくださいました。イエス様はあなたのためにすべての罰を受けてくださいました。人々を愛し、人びとのために生きてくださいました。そして苦しみを受け、十字架にかかって死んでくださいました。神様はイエス様に免じて、あなたのすべての罪を赦してくださいます。私たちは聖霊と火の洗礼を受けて、罪の赦しとイエス様に信頼する信仰をつくっていただきます。そしてイエス様があなたにかわって結んでくださった悔い改めにふさわしい実をあなたの実とみなしてくださいます。あなたを罪に裁くことはなさいません。恐れから自由になって、安心して、進んで力をつくして神様と隣人のために役に立つ歩みをいたしましょう。人々を進んで赦し、傷つけない愛をもって譲れない正しいことを語りましょう。自分を犠牲にしてでもよりよい社会になるように自覚を持ちましょう。隣人と共に幸せをつくっていきましょう。イエス様を迎えるにあたって、このバプテスマのヨハネのメッセージに心をとめる一週間を過ごしましょう。

「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言った。マタイによる福音書 3 章 2 節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン

聖餐の部

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 1 節 2 節

1. 主の食卓を囲み、いのちのパンをいただき、救いの杯を飲み、主にあって我らはひとつ。

※マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。X2

2. 主の十字架を思い 主の復活をたたえ 主のみ国を待ち望み 主にあって我らは生きる。※

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たせたまえ。

みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

設定辞

「主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、『これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。アーメン

また、食事の後で、杯も同じようにして、『この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。**アーメン**だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。

配餐 讃美歌 205 番、260 番、262 番

赦しの宣言

主イエス・キリストのまことの体と、まことの血は、あなたをきよめ、あなたを強め、永遠の命に至らせてくださいます。あなたの罪は赦されました。安心していきなさい。**アーメン**

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 3 節

3. 主の呼びかけに応え 主の御言葉に従い 愛の息吹に満たされ 主にあって我らは歩む。 ※

讃美歌 249 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 われ罪びとの かしらなれども、主はわがために 命をすてて、つきぬ命を 与えたまえり
- 2 あまつ御国の民とならしめ、幹につらなる小枝のごとく、ただ主によりて 活かしたまえり
- 3 妙にも尊き みいつくしみや、求め知らず 過ぎしうちに、主はまずわれを 認めたまえり
- 4 思えばかかる 罪びと われを さがし求めて 救いたまいし 主のみ恵みは 限りなきかな
アーメン

頌栄：讃美歌 543 番

主イエスの 恵みよ 父の愛よ 御霊の力よ ああみ栄えよ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。**アーメン**

後奏